

## 温暖化対策技術の研究開発に関連した取り組みについて (論点)

### 府省間の連携

温暖化対策技術の研究開発を効果的かつ効率的に実施するためには、基礎研究から応用研究、実証試験、環境整備に至るまで、関係省庁が連携する必要があるのではないかと。

### 基礎研究から応用研究までの連携、目的基礎研究の充実

有望な基礎研究の成果(シーズ)が応用研究、実証試験とフェーズアップし最終的な製品化まで迅速かつ円滑に進むため、経験的に開発された技術の基礎研究への回帰などをファンディングや産学官連携の仕組みに工夫が必要ではないかと。

エネルギー分野における革新的な技術開発を政策的に誘導するため、ミッションを与えられた基礎研究を充実させることが重要ではないかと。

### 競争的資金の充実

きめ細かな研究開発テーマの発掘、効果的かつ効率的な研究開発実施の観点から、研究テーマを特定せずに競争的に広く温暖化対策技術の研究を公募する制度を充実することが必要ではないかと。

### 人材の育成

分野融合研究を担う人材として、複数の分野に精通することが可能となる教育が必要ではないかと。新技術の社会受容の重要性に鑑み、技術だけではなく環境・エネルギー政策にも精通したアウトリーチ人材の育成が重要ではないかと。

### 国際協力の推進

GHG削減を世界的に進めるためには、知的財産や産業競争力へ配慮しつつも、CDMやJI、ODAも活用して我が国の温暖化対策技術を積極的に海外展開するべきではないかと。

温暖化対策技術の研究開発を効果的に推進するためには、優秀な海外の研究者を招聘したり、海外との共同研究を積極的に実施することが重要ではないかと。

### 国民各界各層による取り組みの推進

温室効果ガス削減を図るためには、温暖化対策技術の研究開発と合わせて技術の普及が不可欠である。政府が積極的な普及促進策を講じることも重要であるが、国民や企業が省エネ機器を率先して購入したり、エネルギーマネージメントを徹底するなど自主的な取り組みが重要ではないかと。